

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：12608

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2022

課題番号：17H06676・19K20757

研究課題名（和文）広報メディアにみる日本における地域イメージ形成の枠組み—水郷街を事例として

研究課題名（英文）A study of Regional Image Formation in Japan through Public Promotion Media:
Water Towns as a Case Study

研究代表者

香月 歩 (Katsuki, Ayumi)

東京工業大学・環境・社会理工学院・助教

研究者番号：50805124

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、河川・水路・湖沼といった水空間をイメージの基軸とする地域を水郷町と定義し、その広報メディアの言語表現の分析から、水空間という地域の資源を基軸としたイメージの特性を明らかにした。

具体的には、各地域における特徴的な水を基軸とした町の価値の内容として、日本海側では、火山に由来する湧水の水質を活かした農産物の生産活動、および沿岸部の水域とそこに生息する生物の生産や観察に関わる活動、瀬戸内海周辺では、河川上流の渓谷地域における自然景観を巡るアクティビティ、太平洋側では、大都市圏の立地を背景とした多様な活動コンテンツの提示、および大規模河川に由来する町の来歴の提示を、それぞれ位置づけた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国の様々な地域では、地域の歴史性、空間、産業といった、様々な地域固有の資源を基軸としたイメージの形成が模索されている。広報メディアからはこうした地域が主体的に提示しようとするイメージを読み取ることが可能である。本研究で得られた成果は、わが国における観光振興の動向を示すだけでなく、現代社会において複雑化・多様化する人々の地域に対する価値観を映し出すものでもあり、社会における地域のあり方を記号学的に考察する上で有用と考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study defined a water town as a region that utilizes water spaces such as rivers, waterways, and lakes as the core element of its image. Thorough an analysis of text expressions in their public promotion media, we found distinct features and values associated with water resources in each region: 1. Areas on the Sea of Japan side: activities related to agricultural production utilizing spring water originating from volcanoes, as well as production and observation of coastal water areas and the biological organisms living there. 2. Areas around the Seto Inland Sea: activities to explore the natural landscape in the valley areas upstream of rivers. 3. Areas on the Pacific side: presenting diverse activities in waterside areas due to their proximity to metropolitan areas, as well as the history of towns that originated from famous large rivers.

Overall, this study sheds light on the distinct values associated with water resources, contributing to our understanding of the place images.

研究分野：建築意匠、都市イメージ

キーワード：水郷 水空間 観光地域のイメージ 都市のイメージ 広報メディア

1. 研究開始当初の背景

観光振興やまちづくりといった地域活性化には、地域に存在する豊かな風土や文化を地域住民が認識すること、さらにそれを国内外に広く発信することの双方が必要不可欠といえる。こうした観点から、様々な地域がそのイメージをいかにかたちづくり、発信していくかを検討することは、今後の地方都市の発展および持続可能な地域社会の形成において重要である。人々のイメージを形成する要因の一つにインターネット・テレビ・雑誌といったメディアが挙げられ、情報化が進んだ現代においてその影響は顕著である。なかでも行政や観光協会が制作する広報メディアは、地域の魅力となる資源が様々に提示され、地域がどのようなイメージを創出・発信しようとしているかを捉える上で有用な資料であるが、こうした広報メディアが形成する地域イメージに着目した研究は少ない。

わが国の様々な地域では、地域の歴史性、空間、産業といった、様々な地域固有の資源を基軸としたイメージの形成が模索されている。広報メディアからはこうした地域が主体的に提示しようとするイメージを読み取ることが可能であり、その内容は、わが国における観光振興の動向を示すだけでなく、現代社会において複雑化・多様化する人々の地域に対する価値観を映し出すものでもあり、社会における地域のあり方を記号学的に考察する上で有用と考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、広報メディアにみられる地域イメージを、イメージの基軸となる資源に着目して検討することで、わが国における地域イメージ形成のメカニズムを多角的に位置づけることを全体の構想とし、研究期間においては、そのケーススタディとして、河川・水路・湖沼といった水空間をイメージの基軸とする地域を水郷町と定義し、その広報メディアから、水空間という地域の資源を基軸としたイメージの特性を明らかにすることを目的とする。
※研究課題申請時には「水郷街」としていたが、実際の対象地域の立地や規模を鑑み、「水郷町」と表記を変更した。

3. 研究の方法

上記の目的のもと、研究期間には下記の方法で研究を行った。

(1)水郷町の広報メディアを収集し、その言語表現に提示される水と関連した町の価値の内容を、水対象とその価値属性、および水対象と関連づけて提示される関連対象から捉えた。さらに、これらの内容を資料単位で検討・比較するとともに、その地域的な特徴を検討し、広報メディアに表象する水郷町のイメージ形成の枠組みを考察した。

(3)研究対象とした水郷街の現地調査を実施し、水空間の特徴と、観光振興やまちづくりにおける水空間の活用状況を把握し、広報メディアの研究結果を踏まえた考察を行った。

4. 研究成果

(1)水郷町の広報メディアの研究結果

広報メディアの分析に際しては、水郷町の自治体や観光協会が発行する観光パンフレットを資料とした。水郷街の母集団はとして、ここでは水を地域固有の価値と位置づけ対外的に広報を行う地域を広義の水郷町と捉え、選定を行った。具体的には、上記の国土交通省「水の郷百選」の選定地域、さらに「水郷」および「水都」を標榜する地域から観光パンフレットを収集し、水に関する記載がみられた102の地域を選定した（付表）。

これらの資料から、水に関連して提示される町の沿革、見所、名物などに関する言語表現を抽出し、その内容について分析を行った。

(1)-1. 広報メディアに提示される町の価値の意味内容

観光パンフレットから抽出した言語表現から、水と関連した町の価値の内容を検討した。それらは、町の魅力として提示される水対象とその価値属性、および水対象と関連づけて提示される関連対象から捉えることができた（付図1）。

それぞれの内容を概説すると、まず水対象は、湖、干潟、河川、水路、湧水、滝といった地域の水資源を示すものである。水対象を形容する価値属性は、水質や水量といった水対象の物質的な特性を示すもの、大きさや形状といった水対象の視覚的な特性を示すもの、その

ものの古さや歴史上の人物との縁故といった水対象に由来する歴史に関するものがみられた。水対象に関連するものとして提示される関連対象は、山や森林などの水対象周辺の自然環境、橋や寺社などの建造物、ボート遊びなどのレジャー活動まで、幅広い内容がみられた。

これらの水対象の価値属性と関連対象の対応関係を資料単位で検討し、水を基軸とした町の価値構造の典型として下記の①～③を見出した。

①【豊かな自然環境で育まれる優れた水質の水環境とそこでの生産活動】

具体例としては、No. 46 安曇野の豊富で冷涼な湧水を利用したわさびの生産や、No. 74 東広島の地域特有の軟水を使用した日本酒の醸造などが挙げられ、水対象の物質的特性と町の生産活動とが一体的な価値として提示されている。

②【水辺を中心とした美しい景観とそこでのアクティビティ】

具体例としては、No. 64 宍粟における渓谷や湖などの水辺の空間の美しさとそれを楽しむ散策やカヌー体験などが挙げられ、水辺でのアクティビティとそのフィールドとなる水対象の視覚的特性とが一体的に提示されている。

③【都市空間を形成する歴史的基盤としての水環境とそこで培われた地域文化】

具体例としては、No. 28 墨田における隅田川にまつわる近世から近代にかけての町の歴史と隅田川花火大会、No. 68 松江における松江城の堀川を巡る舟下りなどが挙げられ、水対象の意味的な特性が町に伝承する活動の文化的価値を高める歴史的背景として示されている。

(1)-2. 水郷街の価値の意味内容の地理的特性

上記の分析で得られた水郷町の価値の意味内容について、対象地の地理的な特徴をあわせて検討した。ここでは水郷町の特徴を決定する要因として水系に着目し、一つの水系沿いに位置する複数の対象地のまとまりにおける価値属性および活動要素の内容の特徴を検討した上で、さらにそれらを水系が流れ出る海域から日本海側、瀬戸内海周辺、太平洋側の地域群に大別して考察した（付図2）。以下、各地域群における特徴を述べる。

日本海側の地域群：【水質の優れた豊富な雪解け水や湧水を活かした農産物の生産活動】

【沿岸部の水域とそこに生息する生物の生産や観察に関わる活動】

水対象は「湧水」「海」「湿地」、価値属性では水対象の水質に関する内容、関連対象では「農産物」や「水産物」といった生産活動に関する内容がそれぞれ多くみられた。日本海側では、この地域に特有の豪雪が、奥羽山脈（No. 11 美郷）、月山（No. 13 西川）、鳥海山（No. 14 遊佐）、越後山脈（No. 16 只見）といった山々からの雪解け水として提示されるほか、鳥海、大山、霧島などの火山帯が位置することから、No. 11 美郷の六郷湧水群、No. 46 安曇野のわさび田湧水群、No. 93 嘉島の六嘉湧水群といった火山由来の湧水が多いものと推察される。さらに、沿岸部に位置する対象地においては、干潟（No. 33 新潟、No. 89 佐賀）、クリーク地帯（No. 87 柳川、No. 90 神埼）、汽水湖（No. 67 米子、No. 68 松江）といった海と川の境目に形成される水域と、これらの水域に特有の魚や野鳥などの生物の提示がみられた。こうした沿岸部の水域を基点とした内容も、日本海側の水郷町に特徴的な価値の内容といえる。

・瀬戸内海周辺の地域群：【河川上流の渓谷地域における自然景観を巡るアクティビティ】

水対象は「溪流」「滝・淵」、価値属性では水対象の形状に関する内容、関連対象では「ボート」「散策」「観光拠点」といった水対象におけるレジャー活動に関する内容がそれぞれ多くみられた。瀬戸内海には中国山地および四国山地から多くの河川が流れ込むことから、主に河川上流の地域において、No. 60 南丹の保津峡、No. 75 山口の長門峡、No. 98 中津の耶馬溪といった溪流が提示され、深い谷、滝、奇岩といった地形的特徴と、遊覧船や散策路など溪流の周辺を周遊、観察する活動が提示されている。一方、No. 61 大阪は河川下流部の都市化した地域であり、堀川の口の字状の形態的特徴と、堀川や淀川沿いの都市景観を巡る遊覧船やサップボート体験が提示され、水辺の空間を享受するアクティビティが、河川の上流部だけでなく下流の都市部でも展開された事例とみることができる。

・太平洋側の地域群：【大都市圏の立地を背景とした多様な活動コンテンツの提示】

【大規模河川に由来する町の来歴の提示】

水対象は「湖沼」「河川」、関連対象では生産活動、レジャー活動、文化という多様な活動を併示する事例が特に多くみられた。特に関東および中部地方の水郷町にその傾向が強く、水祭りや踊りなどの伝統行事、花火大会やライトアップなどのイベントといった文化的な活動をはじめとした、多様な水辺の活動のコンテンツを提示し、水を基軸とした観光地としての優位性を提示することが、大都市圏に位置する水郷町の価値構造の特徴と考えられる。価値属性では水対象の来歴に関する内容が特に多かった。太平洋側には北上川、利根川、木曾川といった中世から近代にかけて大規模な治水・利水事業が行われた河川があることから、これらの河川とともに発展した城下町や宿場町としての歴史（No. 7 盛岡、No. 24 甘楽、No. 45 木曾、No. 47 大垣、No. 49 郡上）、水運による商業発展の歴史（No. 19 土浦、No. 27 佐原）、水害と治水の歴史（No. 18 潮来、No. 48 海津）といった河川にまつわる町の様々な歴史が、水を基軸とした町の価値として提示されていた。

以上より、それぞれの地域群における価値の特徴を概観すると、日本海側では湧水および沿岸部の水域が有する水質的特徴、瀬戸内海周辺では数多く流れる河川の流域における景観的特徴、太平洋側では大規模河川を背景に形成された都市圏における歴史的特徴が、それぞれの地域群における価値の特性の基幹として位置づけられ、各地域の地質・地形的条件および気候的条件が、水を基軸とした町のイメージの内容との関連性をもつことを見出した。

(2)水郷町の現地調査をふまえた考察

研究期間中に実施した現地調査の対象地は下記の通りである。

- ・島根県松江市、島根県津和野町、山口県萩市：2018年3月
- ・福島県郡山市：2018年9月　・滋賀県近江八幡市、滋賀県高島市：2022年5月
- ・北海道京極町、北海道喜茂別町：2022年9月　・岐阜県郡上市：2022年12月

以下、現地調査で確認できた観光振興やまちづくりにおける水空間の活用状況を整理する。

(2)-1 水空間を中心とした景観整備

郡上および近江八幡では、水空間を基軸とした地域の景観整備事例をみることができた。郡上は長良川上流の清流を利用した水利システムが残り、特に80年代以降これらの水路を中心に据えた景観整備が行われてきた。具体的には史跡の湧水池「宗祇水」の整備、「やなかみずのこみち」をはじめとしたポケットパークの整備などがある。近江八幡は安土桃山時代から八幡堀と呼ばれる水路が地域の商業の礎をなしてきた。戦後の経済成長期に水質が悪化し埋め立ての計画が上ったが、地元住民による保存・環境改善運動が70年代から始まり、現在では西の湖とともに重要文化的景観として選定されるまでに景観が改善された。いずれの地域も水空間の周囲に伝統的建造物群保存地区に選定された景観地区があり、水空間と歴史的景観が一体となって地域の歴史的価値と空間的魅力を形成しているといえる。

(2)-2 観光活動の基軸としての水空間

松江、萩、近江八幡では、水路を巡る遊覧船によって町の景観を見て回ることができる。特に松江では、国宝松江城の堀川を遊覧船が一周し、堀川沿いに名所旧跡が点在することから、地域の周遊・観光の交通インフラとしての水空間の活用を確認できた。ただし水空間の交通としての活用には限度もあり、萩および近江八幡はいずれも伝建地区と水空間が併存する地域であるが、遊覧船が通ることのできる水路は伝建地区の端部にあるため、伝建地区における観光といかに結びつけられるかという点で難しさもみられた。

(2)-3 地域の生活文化や歴史を担う水空間

萩、高島では住宅内に水路や湧水を取り込んだ事例がみられた。特に高島の針江地区では、自噴水を利用した「かばた」と呼ばれる井戸が各住戸にあり、独自の生活文化を成している。現在は「かばた」を巡る見学ツアーが住民ガイドによって実施され、通常は見学できない各個人宅内の「かばた」を見ることができ、各自噴水の飲み比べや利用実体の説明など、水と共に育まれた地域の生活文化を知ることができる。

京極では湧水地が「ふきだし公園」として整備され、湧水の採取が自由にできるほか、親水公園や物販施設も整備され、地域住民に親しまれている。京極、喜茂別はいずれも羊蹄山からの水系を有する地域であるが、喜茂別では積極的な水空間の活用は確認できなかった。京極では遊水地が特徴的な景観を成しており、そうした水空間のそれぞれの特徴も地域イメージにおける活用の展開に影響しているといえる。

地域の歴史を担う水空間としては、郡山が挙げられる。猪苗代湖、安積疏水が明治日本の近代化を示す日本遺産として近年認定され、積極的な観光活用が模索されていた。他の事例は比較的小規模な地域での水空間の活用事例であるが、郡山は広域に分布する水空間を、地域の歴史というストーリーの中でいかに位置づけ、具体的な観光のアクティビティの中に取り込めるかに課題がみられた。

以上の考察は、特に観光活用の観点から検討したものであるが、実際に現地に赴くと、地域住民が水空間の歴史や特徴を来訪者に語る場面に多々遭遇した。人々が集まるところ、都市の形成に水は不可欠であり、そうした本来的観点からも水空間は地域の重要なアイデンティティである。上記で得られた知見が示すように、地域の物質的・非物質的な様々な資源を一つの地域イメージとして結びつけ、そのイメージを地域の中で定着させる基軸として、水空間の活用の可能性は高いものと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Tong Zhenqianhui, Otsuka Masaru, Fujimoto Akiko, Katsuki Ayumi, Okuyama Shinichi	4. 巻 2019
2. 論文標題 The Image of Hospitality for International Tourists on Japanese Hot Spring Resorts' Websites (1) Meaning and Form of Valuable Items	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 223, 224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥山 信一, 高橋千那美, 香月歩, 藤本章子, 大塚優	4. 巻 2018
2. 論文標題 観光パンフレットの言語表現にみる水の街のイメージ形成の枠組み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 383, 384
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 香月 歩, 大塚 優, 奥山 信一	4. 巻 88
2. 論文標題 観光パンフレットの言語表現にみる水郷町のイメージ形成の枠組み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 1136-1146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aija.88.1136	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Tong Zhenqianhui, Otsuka Masaru, Fujimoto Akiko, Katsuki Ayumi, Okuyama Shinichi
2. 発表標題 The Image of Hospitality for International Tourists on Japanese Hot Spring Resorts' Websites (1) Meaning and Form of Valuable Items
3. 学会等名 2019年度日本建築学会大会(北陸)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥山信一, 高橋千那美, 香月歩, 藤本章子, 大塚優
2. 発表標題 観光パンフレットの言語表現にみる水の街のイメージ形成の枠組み
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関